

## 精液検査の精度管理調査について

4年間の調査結果より見えてきたもの

◎小笠原 恵<sup>1)</sup>、黒川 理菜<sup>1)</sup>、伊藤 康生<sup>1)</sup>、藤田 京子<sup>1)</sup>、齊藤 翠<sup>2)</sup>、内田 一豊<sup>2)</sup>、藤田 孝<sup>2)</sup>  
愛知県臨床検査技師会 生殖医学検査研究班<sup>1)</sup>、愛知県臨床検査技師会 精度管理事業部<sup>2)</sup>

【目的】2000年に愛知県臨床検査技師会において全国で初めて生殖医学検査研究班が発足され、2020年には精度管理事業部において生殖医学検査部門が立ち上げられた。外部精度管理調査を始めて4年が経過した。これまでの調査結果およびアンケート結果を振り返り、今後の精度管理調査のあり方について検討した。

【対象】2020年度～2023年度に実施した愛知県臨床検査精度管理調査およびアンケート結果

【結果】設問数は2020年5題、2021年からはフォトサーベイを含め6題とした。参加施設数は、18施設(2020)、18施設(2021)、16施設(2022)、18施設(2023)であった。平均正答率(以下 avg.)は、95.5%(2020)、90.7%(2021)、97.2%(2022)、100%(2023)であった。過去4年分の設問内容は、精液の学術用語を含む基準値の設問5題(avg.92.9%)、フォトを含めた精子形態の設問5題(avg.100%)、精子形成に関する設問4題(avg.100%)、精液採取に関する設問3題(avg.96.1%)、精液検査方法に関する設問3題(avg.98.1%)、その他3題(avg.88.0%)であった。アンケート結果では、計算盤におい

てMAKLER計算盤が80%(2020)、75%(2022)と大半を占めていた。基準値ではWHOマニュアル第6版が22%(2021)から45%(2023)と増加していた。

【考察】正答率は概ね80%以上であり良好な結果が得られた。設問内容は精子形態と精子形成に関する設問は正答率avg.100%であり書籍等を重視していることがわかった。アンケート結果より、基準値は2021年に改定されたWHOマニュアル第6版に変更している施設が多くなっていることがわかった。

【結語】調査結果より、参加施設が一定レベルの専門知識を有することが確認できた。今後、文章設問から試料や動画ファイルを活用した新しいサーベイの段階に移行し、検査技術の水準を調査する必要性を感じた。より一層の生殖分野における精度管理をすすめていきたい。

連絡先：社会医療法人財団新和会 八千代病院  
中央検査部 小笠原 恵 TEL0566-97-8111